

創設者「野口 遵」について

略 歴

- 明治6年 1873 7月26日金沢市で生まれる。
 - 明治29年 1896 東京帝国大学電気工学科を卒業。郡山電燈の技師長として赴任。
 - 明治31年 1898 シーメンスの東京支社に入社。この間カーバイドの研究を続ける。
 - 明治36年 1903 三居沢(仙台市)で我が国最初のカーバイドを生産。
 - 明治39年 1906 曾木電気を創立。鹿児島県の曾木滝を利用して水力発電を起こす。
 - 明治41年 1908 日本カーバイド商會を設立し水俣に工場を建設。曾木電気、日本カーバイド商會を合併して社名を日本窒素肥料(現JNC株式会社)と改称し、石灰窒素、硫安の製造を開始。
 - 大正10年 1921 カザレー(伊)のアンモニア合成の特許を買収して延岡に世界最初のカザレー式アンモニア合成工場を建設。
 - 大正11年 1922 旭絹織(現旭化成株式会社)を設立。
 - 大正12年 1923 延岡工場を新設、硫安を生産。
 - 大正13年 1924 朝鮮への進出を決定。
 - 大正14年 1925 北朝鮮赴戦江で水力発電の開発(20万kW)に着手。続いて長津江(33万kW)、虚川江(34万kW)を完成、鴨緑江本流には水豊発電所(70万kW)を建設。
 - 昭和4年 1929 ドイツ・ベンベルグ人絹の特許をもとに日本ベンベルグ絹絲を設立。
 - 昭和16年 1941 全財産3,000万円を寄附し、2,500万円で野口研究所を設立。500万円を朝鮮奨学会に寄附。
 - 昭和17年 1942 勲一等瑞宝章を受章。
 - 昭和19年 1944 1月15日逝去。享年72歳。
- 野口遵の事業は、旭化成株式会社、JNC株式会社、積水化学工業株式会社等に引き継がれています。



野口研究所とは?

公益財団法人野口研究所は1941年に、旧日窒コンツェルンの創始者故野口遵が私財を投じて設立した80年以上の歴史をもつ研究所です。設立趣旨は「化学工業の振興を期するため、諸般の研究並びに調査を行うとともに広く重要な研究に対し援助をなし、なお研究者の養成、発明・考案の工業化にも力を注ぐ…」となっております。この精神を尊重しつつ、現在の社会ニーズにこたえるような基礎的研究、研究助成および人材育成を目的として事業を進めています。現在は、糖質科学領域を中心とした研究を行っています。

野口研究所の歩み

- 昭和16年 1941 日本窒素肥料株式会社社長 野口遵が、私財2,500万円を拠出して創立。文部大臣より民法第34条に基づき財団法人設立の許可を受ける。設立年月日 昭和16年2月10日。研究所を横浜、延岡、興南に開設。
- 昭和21年 1946 各研究所を東京板橋(現在地)に移転。
- 昭和23年 1948 維持会制度を設ける。調査部を東京神田に新設(主として水力資源と森林資源の活用に関する調査を行い昭和30年まで継続)。
- 昭和31年 1956 基本財産拡充のため募金(83社より約3億円の賛助を受ける)。
- 昭和37年 1962 野口情報センターを開設。
- 昭和44年 1969 同情報センターを調査部として発展改組。
- 昭和60年 1985 投資有価証券のうち株式を処分し、国債・地方債・金融債・貸付信託等に転換、基本財産および通常財産の拡充を図る。
- 平成3年 1991 創立50周年。
- 平成6年 1994 調査部を廃止し、調査事業を縮小。
- 平成21年 2009 野口遵研究助成金制度発足。
- 平成22年 2010 公益法人に移行し、11月1日付で「公益財団法人野口研究所」に名称変更。
- 令和元年 2019 野口遵研究助成金10周年記念講演会を開催。
- 令和3年 2021 創立80周年。

お問い合わせは
こちらまで

〒173-0003 東京都板橋区加賀1丁目9番7号
公益財団法人野口研究所 野口遵研究助成金 事務局
TEL 03-3961-3255 e-mail josei@noguchi.or.jp

野口 遵 Shitagau Noguchi
研究助成金の募集

2023

公益財団法人野口研究所

